街道・宿場・湊 一

中山道 柏原宿

山東町柏原

◆柏原宿の概要

江戸から京へ向かう旅人が、近江国に入る最初に訪れる宿場が柏原宿です。最初は徳川幕府の直轄地でしたが、江戸中頃の享保九年（一七二四）には、大和郡山藩（柳沢家）の領地となって明治維新に至りました。

柏原宿は中山道六十七宿の一つで江戸より六十番目の宿場です。地理的状況もあり、宿の長さは東西十二町四十九間（約一・四㎞と近江中山道八宿の中では一番長いです。宿場の規模は、天保十四年（一八四三）の『中山道宿村大概帳』によると、宿高二千百四十一石、家数三百四十四軒、人口千四百六十八人、本陣一軒、脇本陣一軒、旅籠屋二十二軒とあり、城下町の高崎宿・加納宿を別格とした六十五宿で六番目の宿高を誇ります。

◆柏原御茶屋御殿跡

柏原のまちなみ

江戸時代のはじめ、徳川家康・秀忠・家光3代にわたる将軍は、京都へ上洛するために東海道や中山道に将軍専用の休泊施設として、御茶屋・御殿を新設。その一つが柏原御茶屋御殿で、元和九年（一六二三）家光の時に建立されました。その後、徳川の権力が確立し上洛の必要がなくなり、元禄二年（一六八九）に解体されるまでの六十六年間機能しました。御殿が描かれている絵図などを見ると、街道に面して2つの門が開き、間口四十二間、奥行き三十八間の敷地に、唐破風の建物が建ち並んでいたようです。現在は当地にはその痕跡はなく、裏門と伝えられる山門（勝専寺）や玄関に使われていたとされる「墓股（かえるまた）」、水瓶などが残っています。近江には柏原御殿のほかに、永原御殿（野洲町・中山道）と水口御殿（水口町・東海道）が設置されました。

◆伊吹もぐさ

柏原宿の北にそびえる伊吹山は、薬草の宝庫で、中でもここで採れた良質のヨモギでつくった「伊吹もぐさ」は街道の名物でした。最盛期には十軒ほどの店が軒を並べていたようですが、その中で特に有名であったのが「亀屋七兵衛佐京」の店です。歌川広重が描く浮世絵「木曽海道六拾九次之内　柏原」は、その店頭風景を描いたものです。現在も当時の佇まいを有し、「伊吹艾本舗」としてただ1軒もぐさを販売しています。（建物は町指定）

「亀屋七兵衛佐京」を有名にしたのは、当家六代目七兵衛氏幸で、“コマーシャルソング”の元祖とも呼ばれています。七兵衛は行商で江戸へ下り、江戸でもぐさを売りさばいては吉原で遊興を重ね、その時、吉原の女性たちに「江州柏原伊吹山のふもと　亀屋佐京のきりもぐさ」と歌を歌わせてその名を広めました。こうした奇抜な宣伝方法で財をなし、邸宅に大改造し、庭園を築いて旅人の話題を呼びました。

伊吹艾本舗

◆清滝寺徳源院

近江守護佐々木氏の流れを汲む京極氏の菩提寺。現在の境内は二二世高豊が寛文十二年（一六七二）に整えたもので、本堂、位牌堂、三重塔（県指定）、墓所、庭園などが配されています。墓所は初代から京極家歴代の当主・分家の墓三十四基が整然と並び、鎌倉から江戸時代にかけて墓石の変遷を知る貴重な史跡として国指定となっています。

徳源院庭園

◆成菩提院（じょうぼだいいん）

成菩提院は寂照山円乗寺と称する天台宗の寺院です。天台宗の談義所（学問所）として威勢を誇り寺観を整えました。信長・秀吉・小早川秀秋などが宿泊し、庇護をしています。江戸のはじめ頃には、六十四坊、僧侶三百人を数えたといいます。

成菩提院境内

◆北畠具行墓（国指定）

後醍醐天皇に仕え、鎌倉幕府打倒に加わっていた北畠具行が、幕府に捕らえられ鎌倉へ護送される途中の、元弘二年（一三三二）この地で斬首されました。墓（宝篋印塔）は、高さ二百四㎝、貞和三年（一三四七）の銘があり、斬首から十六年後に建てられました。

◆柏原宿歴史館

大正六年の旧家を改修して、柏原宿の紹介と史跡の情報拠点として平成十年に開館。ボランティアの「ふれあい友の会」の強力なパワーによる展示は、質・量ともに圧巻です。

柏原宿歴史館